編集後記：「天気」2009年7月号で，小倉義光先生が「ゲリラ豪雨という言葉をなくそう」と呼びかけておられますが，全く同感です．いつ，どこで起きるのか，予測が困難で，不意に人の命をも奪ってしまうという悲劇的な性格を表す言葉としてでてきたものと思いますが，「ゲリラ」という言葉から受けるイメージと，豪雨災害のそれとは，個人的にはどうしても結びつけることに抵抗があります．また，定義が明確ではありませんから，少なくとも学問の場での使用にはそぐいません．

ここ数ヶ月，何度か大雨の予測に関する取材を受ける機会があり，その都度上記のような説明をしたのですが，実は自分自身意味が曖昧なまま説明に使っている言葉が多々あることに気づかされました．例えば「大雨」と「豪雨」の違いを聞かれて，恥ずかしながら直ぐには答えられませんでした．気象庁のホームページを調べると，雨に関する予報用語として「大雨」は「大雨注意報基準以上の雨」，「豪雨」は「著しい災害が発生した顕著な大雨現象」と書かれており，以後気をつけようと思った次第です．

こちらの言葉足らずや曖昧な説明で，意図しない内容の含まれた報道となってしまったこともありました．一般の方には専門用語は通用しませんから平易な表現を心がけるわけですが，中途半端な理解では誤解が生じ兼ねません．言葉の定義を意識して説明することの大切さを痛感しました．

インターネットの発達で，気象学の用語も手軽に検索できる時代ですが，膨大な量の検索結果から，信頼できる情報を選択することは結構難しいものです．「天気」ではここ数年掲載のなかった「新用語解説」を2009年6月号から再開させましたが，お気づきでしょうか．第一線で活躍する執筆陣による信頼できる用語解説として利用いただければと思います．また，「この用語を取り上げて欲しい」という希望がありましたら，是非ご一報下さい．　（小司禎教）